

道理のない高校つぶし(案)は撤回を

大正白稜高校・福泉高校の存続を求める署名

大阪府教育委員会（府教委）は、8月26日の教育委員会会議で「府立学校条例、再編整備計画に基づく令和6年度実施対象校（案）」を示し、「様々な意見を踏まえ11月の教育委員会会議で最終決定する」としました。その内容は、「入学を志願する者が定員に満たない状況が続いている」などを理由に、大正白稜高校、福泉高校の二つの府立高校を、2026年度から募集停止＝廃校にするというものです。これは、次の点からきわめて不当です。

第一に、そもそも、子どもたちの「学ぶ権利」を保障するために設置されている公立高校の「定員」には「ゆとり」があって当たり前であり、「定員に満たない」ことを理由に廃校にするのは道理がありません。府教委は、毎年、「就学セーフティネット」として、公立・私立の募集定員の合計が進学予定者数を上回ることを確認しており、「定員に満たない」学校が出るのは制度上の必然です。

第二に、府教委は「1学級40人、1学年7クラス」を前提に、「少子化なので統廃合が必要」としていますが、不登校生が増加するなど一人一人により丁寧な教育が求められている今、少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実施や学校規模の縮小など、教育条件の改善こそ行うべきです。

第三に、大正白稜高校は2018年に二つの府立高校の統廃合でできた学校であり、わずか6年での廃校方針は不当です。近隣の泉尾工業高校もすでに廃校方針が決定されていることから、大正区では、3つあった府立高校が10年間にすべて廃校になり、区内に高校がなくなることとなります。これは、地域の教育環境を大きく低下させ、子どもたちの「学ぶ権利」を奪うものです。

以上のことから下記について強く要請します。

記

1. 大阪府立大正白稜高校・大阪府立福泉高校の募集停止案を撤回すること。
2. 「3年連続して定員に満たない高校は再編整備の対象」としている大阪府立学校条例を抜本的に見直し、「定員」を理由にした高校つぶしは行わないこと。
3. 少子化をチャンスと捉え、少人数学級の実現、学校規模の縮小など、すべての府立高校の教育条件を改善すること。

大阪府教育委員会 教育長 水野達朗 様

年 月 日

氏名	住所